

第14回

国際ボランティア ワークキャンプ

14th
International Volunteer
Work Camp

in ASO

報告書



テーマ: NEXT STAGE ~受け継ぐキセキ、新たなる道~



2019年8月7日(水)~8月9日(金) 国立阿蘇青少年交流の家

Contents

- 02 目的・概要／概略
- 03 未来職道協力者／分科会アドバイザー／スケジュール
- 04 開会式／基調講演／オープニングセッション
第1分科会「差別と偏見について考えよう」
- 05 第2分科会「平和」
第3分科会「児童労働」
- 06 第4分科会「子供の権利」
第5分科会「情報/SNS」
- 07 第6分科会「地域医療」
第7分科会「多文化共生」
- 08 全体交流会
未来職道
- 09 全体報告会
閉会式
- 10 お礼のメッセージ
- 11 アンケート報告



目的・概要

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営するワークキャンプを、2泊3日の宿泊型で計画・実施しました。

本ワークキャンプへは84名の高校生、4名の留学生・海外からの大学生合わせて88名と3名の日本人大学生がサポーターとして参加しました。分科会活動等様々な活動をおし交流、お互いを理解、「思い」を共有し、日ごろの生活の中で活かせるボランティア活動の取り組みに結びつけていくことができました。

第14回目を迎える今年度の国際ボランティアワークキャンプ(以下、ボラキャンと記述)では、「Next stage 受け継ぐキセキ 新たなる道」をテーマとして掲げ開催いたします。元号も平成から令和へと変わり、今まで歴代の先輩方が残してくれたキセキを引き継ぎながら自分達で新しい道を切り拓き次のステップに進もう!という思いを今回のテーマに込めて実施いたしました。

概略

- 実施年月日
2019年8月7日(水)～9日(金)2泊3日
- 実施会場
国立阿蘇青少年交流の家(以下阿蘇青と記述)
〒869-2692
熊本県阿蘇市一の宮町宮地6029-1
- 参加者
88名
①一般高校生／実行委員(EC) (58名／26名)
②留学生・海外からの大学生(4名)
- 主催
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
※高校生ECメンバーの氏名については、最終ページに記載
- 構成団体
熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、
税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト、
一般社団法人ドリーム・ラボ
一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
- 協力団体
独立行政法人国際協力機構(JICA)九州国際センター
阿蘇医療センター
- 後援
熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社
日本ボランティア学習協会

Work Camp

SCHEDULE

1日目 8月7日(水)

- 9:00 一般参加者受付(熊本市国際交流会館)
- 9:30 出発
- 11:30 到着
- 11:45 オリエンテーション @講堂
- 12:15 昼食
- 13:00 開会式 @講堂
- 基調講演(興梠 寛氏 昭和女子大学教授)
- オープニングセッション
- 15:10 休憩
- 15:30 分科会活動①
- 第1分科会 差別と偏見について考えよう @第4研修室
- 第2分科会 平和 @第1研修室
- 第3分科会 児童労働 @第6研修室
- 第4分科会 子供の権利 @第2研修室
- 第5分科会 情報/SNS @第3研修室
- 第6分科会 地域医療 @大研修室
- 第7分科会 多文化共生 @オリエンテーション室
- 17:00 タベの集い
- 17:30 夕食
- 19:00 全体交流会(キャンプファイヤー) @草原ファイヤー場
- 21:10 入浴
- 22:00 就寝準備
- 22:30 就寝

2日目 8月8日(木)

- 6:30 起床
- 6:45 クリーンタイム(各部屋の清掃)
- 7:15 朝の集い
- 7:30 朝食
- 8:00 朝の散歩
- 9:00 分科会活動②
- 12:00 昼食
- 13:00 分科会活動③
- 17:00 タベの集い
- 17:30 夕食
- 18:00 入浴
- 19:00 未来職道(出展団体12団体) @大研修室
- 21:00 終了・入浴
- 22:00 就寝準備
- 22:30 就寝

3日目 8月9日(金)

- 6:30 起床
- 6:45 クリーンタイム(各部屋の清掃)
- 7:15 朝の集い
- 7:30 朝食
- 8:40 退出点検
- 8:45 全体報告会 @大研修室
- 10:25 報告会終了・休憩
- 10:50 クロージングミニ講演会
- 11:30 閉会式
- 12:00 昼食
- 13:00 阿蘇青出発
- 13:10 阿蘇神社到着・散策
- 14:15 阿蘇神社出発
- 16:15 熊本市国際交流会館到着・解散



「未来職道」協力者 敬称略

- KLCC(地雷廃絶と被害者支援の会・熊本) 田尻 俊次
- 熊本ユネスコ協会 橋本 隆介
- NPO法人外国から来た子ども支援ネットくまもと ... 竹村 朋子
- FSやつしろ 外国にルーツを持つ子どもたちの会 .. 大住 葉子
- きょうされん熊本支部 福島 貴志
- JICAデスク熊本 赤星 亜朱香
- 日本ワーキングホリデー協会 藤田 逸郎
- フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ 岩坂 省吾
- 日本ボランティア学習協会 興梠 寛
- 西尾 雄志
- TED×Kumamoto 松岡 祥仁
- Smile Station EC・事務局
- SDGs 木下 俊和

分科会アドバイザー・事務局

- 分科会アドバイザー
- 岳中 美江 (特定非営利活動法人バルビー)
- 田辺 寿一郎(熊本大学大学院非常勤講師)
- 岩坂 省吾 (フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ)
- 高智穂さくら(熊本シティエフエム)
- 赤星 亜朱香(JICAデスク熊本)
- 大住 葉子 (FSやつしろ)
- 大和 賢祐 (秀岳館高等学校)
- 事務局
- 八木 浩光、勝谷 知美、下田 隆文、
- 木下 俊和、田上 美奈(KIF)

「開会式・基調講演・オープニングセッション」

報告者：廣瀬 実結（東海大付属熊本星翔高校1年）

第14回国際ボランティアワークキャンプinASOの開会宣言をかざったのは、副委員長の村上琴音さん。今年は人数が少ない中での開催となりましたが、国内のみならず台湾・フィリピン・パプアニューギニアなどの留学生や海外からの大学生が参加してくれました。まだ、EC参加者ともに打ち解けておらず緊張感がひしひしと伝わってきました。次にオープニングムービーがあり、今までのボラキャンの軌跡を参加者のみなさんに知ってもらうことができました。実行委員長の工藤優奈さんのあいさつの中では、清掃活動等のように実際に活動するだけでなく「知るこゝと」もれっきとしたボランティア活動だということが伝わったと思います。

開会式が終わった後、第1回からお越しくださっている昭和女子大学教授の興梠寛先生の基調講演とワークショップがありました。基調講演では初めに、なぜボラキャンができたのかを聞きました。今までの先輩方のいろいろな思いが受け継がれていることが分かったと思います。興梠先生のお話の中で特

に印象に残ったのは、世界を100人の村に例えた話です。「世界を100人の村に例えれば、高等教育機関で学ぶことができ



る人は1人です。あなたはその1人です。その世界の現実のなかで私たちは誰のために学ぶのでしょうか」というところで、自分たちが勉強できているのは当たり前ではなく、世界のいろんな現状からできない人の方が圧倒的に多いので、そういった人たちのためにも勉強しようと思いました。



ワークショップでは、ボラキャンやボランティアに対する心境を4つの中から選び、指定された場所に移動するといったことをしました。

オープニングセッションでは、ECが2つに分かれ「態度」と「時間厳守」についての劇をしました。良かった例と悪かった例をそれぞれ示し、違いを参加者に考えてもらいました。この劇で、国際ボランティアワークキャンプの参加者としての意識を持ってもらえたと思います。



第1分科会 参加者13名

「差別と偏見について考えよう」

報告者：久保田 千尋（東稜高校2年）

第1分科会では差別や偏見をなくしていくためにはどうすればよいか考えました。

1日目はアイスブレイクとして他己紹介をしたあと、「私は誰?」というゲームをしました。他の人からヒントをもらい背中に貼られている自分の職業や役をあてるものです。その後、ヒントの中に嫌な気持ちになった言葉はなかったかを話し合ってもらい、どう表現すればよかったのかを考えました。このゲームを通して自分達も知らないうちに差別的な言葉を言っているかもしれないという意識を参加者の方々に持ってもらいました。

2日目にはまずアイスブレイクとして仲間探しをした後、LGBTQについて考えました。実際に性差別をうけた方の体験談をECに話してもらい、どうしてそのようなことが起きたのかを参加者たちに投げかけてポストイットに書いてもらいました。私たちが予想していたよりも多くの意見が出ました。その意見をもとに差別と偏見をなくすためにどうすればよいか考えました。次に人種差別について考えました。日本で



あった外国人差別を例にあげ、どうして日本人は差別をしてしまったのかを考えてもらい、同じようにポストイットに書いてもらいました。ここで出た意見として「メディアなどによる偏ったイメージや固定概念があったから」、「文化や生活、言語の違いを理解していないから」などがありました。これらの2つの活動をもとに午後からダイヤモンドランキングというものを行いました。差別をなくすためにできる9つのことを話し合ってもらい、ランキングをつくりました。これらの活動を通して自分たちにできることを話し合ってもらい、1人1人の個性を理解し認めることが大切であるという結果になりました。

キャンプ前日までに準備が終わらず、不安なところも多くなりましたが、多くの方々に支えられ、最後まで成し遂げられました。参加者の皆さんとともに素敵な分科会活動を行うことができ、感謝しています。



私達の分科会は参加者一人一人に平和な社会の実現の為に自分にできることを見つけてもらうことをゴールとして二日間の活動を行いました。

一日目は、アイスブレイキングとして、自分の考える「平和」を紙に書き、考えを共有しました。そして、参加者に「平和」についての基礎知識をレクチャーし正しい知識をつけてもらいました。その中でも、平和には消極的平和と積極的平和があることに重点を置き、二日目の活動へ繋がりました。消極的平和とは、「直接的暴力（戦争やDVなど直接的に他人を傷つける行為）がない状態で、積極的平和とは、構造的暴力（不平等な力関係や差別、貧困などの状態）が解消された状態」を意味します。

二日目は、アイスブレイキングとしてお絵描き大会をしました。ECの出したお題を参加者に描いてもらい、様々な絵が出て盛り上がりました。そのおかげで、自分の意見を出しやすい環境になったと思います。そして、『自分の望む平和ってどんなもの?』について考えてもらい、参加者の意見をもとに消極的平和と積極的平和のグループに分かれて、①なぜそのような平和を望むのか②その平和が実現した社会はどんな社会か③実現するにはどんな方法があるか④自分たちに



できることは何かについて話し合ってもらいました。両グループで活発な話し合いが行われ、とても具体的な意見がたくさん出ました。また、グループごとに発表し意見を共有することで、考えを深められたと思います。最後に『平和な社会の実現の為に自分にできること』を一人一人考えてもらいました。どの参加者の考えも、「高校生だからこそできること」で、とても具体的なものでした。今回のキャンプで得たものを将来に活かしたり、周りの人に広げていったりして欲しいです。

また、二日間を通して、千羽鶴を作りました。千羽鶴は私たちの分科会だけでなく、いろいろな分科会の方々、事務局の方々、田辺さんをはじめとするオブザーバーの方々、大学生サポーターの方々が協力して下さり、完成させることが出来ました。感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

千羽鶴は、力を貸していただいた方々の思いを背負って、ECと赤星さん（JICAデスク熊本）で長崎の平和公園に届けました。



私たち第3分科会はず、アイスブレイキングで他己紹介となんでもバスケットをして交流を深めました。参加者もECもすぐに打ち解けあうことができたように感じます。その後、「One For All」という名の地図ゲームをしました。これは、一人一人がもっている情報をシェアすることで地図を完成させるゲームです。このゲームを通して、一人ではできないこともみんなで協力すればできるということを経験してもらうことができました。2日目は、誕生日の参加者を祝いました。アイスブレイキングの中に組み込んで計画していたため、素敵なサプライズができました。その後、児童労働についてカードゲームを通して現実を知ってもらいました。例えば、レンガ工場働く男の子は1つ5kgのレンガを炎天下のなか3つ運んでいます。その子もつレンガの重さを実際に体験しました。また、身近な商品を製造している会社が、以前小さな子どもを働かせていたという事実は、参加者、そしてECも改めて児童労働の深刻さを感じたように思われます。午後からのフォトランゲージでは、子どもが売買されている現状を視覚的に知ってもらいました。苦しみや

つらさが伝わってくる写真は、たった1枚でも大きな影響力がありました。他にも、どのくらい子どもたちが児童労働の被害にあっているのか、どの地域に多いのかを正しく知ることができたと思います。そして、私たちは児童労働を減らすために何ができるのかを考えました。はじめに、自分が本当に好きなこと、得意なことを見つける自己発見ワークショップをしました。このときには、参加者とECの会話が活発になり明るい雰囲気楽しく進めることができました。その後、自分は世界から児童労働をなくすためにはどのような支援ができるのかを考え、決意表明をしました。得意なこと、好きなことを武器に自分なりの支援方法を考え出すことができたと思います。そして、分科会みんなで熊本では何ができるかを考えました。私たちの分科会は、今年の秋・冬に実際にアクションを起こすことを決めています。寄付やチャリティーコンサートなどを予定中です。

この分科会活動を通して、参加者、そして私たちECも新たな一歩を踏み出すことができました。



第4分科会 参加者11名

「子供の権利」

報告者：柳田 彩佳（熊本学園大付属高校2年）

私たち第4分科会では「子どもの権利」をテーマに、人間の多様性の尊重、障がいのある者ない者の共生社会の実現について正しい知識を持ち、理解を深めることで私たちに何ができるかを考えるという活動を行いました。「子どもの権利条約」とは18歳未満の子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められたもので、世界中の子どもが心身ともに健康に、自分らしく育つための権利条約です。1日目は「フォトランゲージ」で世界の子供達のケースを題材に、それぞれの子ども状況に対してどのような権利が侵されているのかをグループで考え「子どもの権利条約」を理解しました。2日目は「とある冒険家の体験」というアクティビティを行いました。耳の聞こえない人ばかりが暮らす島に冒険家が迷い込み、その島を抜け出すまでに何を感じ、どう行動するのかを冒険家と島の住民、双方の立場に立ってディスカッションしました。「普通とは何か」「障がいと健常の違いは何か」さらに「健常者が多数派だから普通で、障がい者は少数派だから普通ではないのか」つまり、そう考えると「障がい者と健常者の違いはない」という結論に至りました。障がいについて詳しく知ってもらうために軽度発達障害について説明をし「目に見えない障がい」ということを参加者の方に伝えました。

そこで、実際にECが子ども発達支援センター「えるぴあ」で行ったボランティア活動での体験を交えながら「インクルーシ



ブ教育」という障がいのある者となりがともに学ぶ教育システムについて学び、加えて障がいをもつ子どもたちの学習、生活環境を整えるにはどのような配慮が必要なのかを教室の模型を使い考えました。最後に参加者の方とヘルプカードを作成しこれからの日常生活での自分の決意表明をしてもらいました。3日目は2日間を通して学んだこと、考えたことを全体報告会で発表しました。活動初日は意見が出にくい状況でしたが、だんだん活発な意見もでてきて活気のある分科会になりました。

世界では子どもの権利の保護、改善に積極的に取り組んでいる国がある一方で、日本ではまだまだ課題があるのが現状です。この分科会活動を通して「子どもの権利」について関心を持ち、共生社会の実現へ近づけたら良いと思います。この3日間、積極的に取り組み作り上げていただいた参加者の皆さん、ありがとうございました。



第5分科会 参加者13名

「情報 / SNS」

報告者：村上 玲奈（熊本工業高校2年）

私たち、第5分科会「SNS／情報」では、「SNSのよりよい使い方を考えよう！」をテーマに高校生の私たちにとって身近な問題について話し合いました。

1日目、初対面のみならずお互い仲良くなるために「3つ選んで自己紹介」を行いました。9つのテーマの中から好きなテーマを3つ選ぶ自己紹介です。恋愛話や趣味など色んな話が聞けました。次に、LINE交換（仮）をしました。ECから「LINE交換をしよう！」と言われ、参加者が各々リアクションしたところで、ECからストップがかかりました。「嫌だ」と思った人も、「別にいいよ」と思った人もいたようです。人それぞれ考え方が違いました。その後、各国のSNSについて、資料を見ながら意見を出し合いました。「日本人の半数はSNSを使っている」などの意見や、「ドイツはあまりLINEを利用しない」などの意見が出ました。また、国によって利用数が多いSNSが違ってくるわかりました。最後に、参加者のみなさんに自分自身のSNSの

利用について考えてもらいました。全員LINEを利用しており、SNSの平均利用時間は1日4～5時間で、最高10時間利用している人もいました。お互い仲良くなり、SNSについてどう思っているのか知れて良かったです。

2日目、最初に伝言ゲームをしました。絵を描いて説明するのも言葉で絵を説明するのも情報が変わって行って皆苦戦していました。

次に、ECが作ったフェイクニュースのパワーポイントをみて、拡散のしくみ、どんなニュースが拡散されやすいのか？について話し合った後、情報倫理教育についての話を聞き、一人一人が家、友人間、学校で何ができるかを考えました。午後からは、実際のトラブルに巻きこまれたことを想定した活動を行いました。その後、分科会のまとめとして、スマホを利用する際のルールを作りました。二日間、緊張と不安でいっぱいでしたが、参加者のみんなが意見をたくさん出してくれて分科会活動を進めることができました。

ECのみんな、アドバイザーの方、今までありがとうございました。



私たちは第6分科会「地域医療」では、よりよい未来の医療とはなにかというテーマの下、3日間充実した分科会活動を行う事が出来ました。

1日目のアイスブレイクではECも混ざり椅子取りゲームから始めました。この時、負けた人から自己紹介を行い、お互いを知ることができました。その後、医療クイズを10問出して、地域医療の課題や現状を知ってもらいました。クイズの解説ではグラフなども取り入れ参加者のみなさんが知らない知識を知ってもらえるいい機会になったと思います。その後、過疎地域で医者不足により起こったニュースを見てもらい、何故このような事件が起こったのか考えてもらいました。そして、1人ずつ発表してもらい全員の意見を共有しました。

過疎地域は、「交通整備が整っていないため移動が不便」、「医者が少ないので病院に行っても専門医が居ない」などの意見が出ました。

出た意見を元に、このような事件を解決するためにどのような取り組みがあればいいのか考えてもらいました。例えば、「地域で働く医者に研修制度や福利厚生を充実を図るなどの待遇を設ける」、「オンライン診療を実践する」など現実的に可能な意見が具体的にたくさん出ました。



ここでは、どのような取り組みをするべきか考えてもらう上で、その取り組みを行ったときにいい影響だけでなく悪い影響もあることを知ってもらい、物事を多面的に見ることの大切さを知ってもらいました。

2日目は、はじめにアイスブレイクとして、ボールあてをして分科会メンバーの仲を深めました。その後、「よりよい未来の医療」というお題でウェビングを行いました。1日目の学びを元に男女に分かれ、それぞれで図に書いてもらい、思考の流れを発表してもらいました。たくさんの意見が出て男女で違うウェビングが完成しました。自分の意見とは違う考えを共有することで広い視点から考えることが出来たと思います。午後からは阿蘇医療センターを訪問し、院長から阿蘇の現状や課題についてのお話を聞き、施設の見学を行いました。医療に興味をもつ私たちにとって日常生活では経験できない貴重な経験になりました。その後My challengeをして地域医療の課題→改善策→自分が出来ることを全員に書いてもらい、分科会を通してのまとめをもらいました。

3日間という短い時間でしたが参加者の皆さんのおかげでとても充実した分科会になりました。本当にありがとうございました！



私たち第7分科会では「多文化共生」について考えました。多文化共生社会を実現するにはどうすればいいのか、また、私達には何が出来るのかを話し合いました。

1日目の最初にはアイスブレイクとして「バーンガ」を行いました。バーンガはトランプを使ったゲームで基本のルールとして周りの人と喋ってはいけないというルールがあります。またグループによってルールが異なっています。これは2つとも異国のことを示していて、言葉が通じないということと、国によって法律等が違うことを表しています。そして次に多文化共生というワードについてのイメージを聞き、その後、外国にルーツを持つECがその国と日本の文化の違いについてのクイズをしました。

2日目の午前にはアイスブレイクで多言語フルーツバスケットをしました。日本語の他にタガログ語とロシア語を使いました。その後、困っている外国人が身近にいた場合、日本人である私達は何が出来るのかということ寸劇を通して考えました。そして、「ハーフ」と「ダブル」という言葉の違いを説明して、どのような印象を持ったのかを聞き、実際にECや外国にルーツを持つ人はどちらの言葉の方がしっくりくるかを聞き、日本人はどう使い分けるべきかを考え、「本人の意思に寄り添う」などの相手

に合わせる意見が多く出ました。

そして午後には「国際交流」と「多文化共生」の違いを考え、「国際交流は多文化共生に辿り着く為のステップ」や「国際交流を重ねて多文化共生というゴールに行き着く」等の意見ができました。その意見を踏まえて、自分が思う「多文化共生」に辿り着くには自分達に何が出来るかということを考えました。実はこの2つの言葉には明確な違いが無く、とても説明が難しかったのですが、参加者の方々もそれぞれのゴールを考えてくれて、とても有意義な活動になりました。

最後にこの2日間の活動報告書を作りました。ECが伝えたかったことが上手く伝わっていたか心配でしたが、1日目の活動の意味や、それを踏まえた2日間の活動での理解の深まりが見えてとても嬉しかったです。

1日目は思っていたスケジュール通りに進まず焦っていたのですが、2日間は失敗が気にならないほど巻き返す事が出来て、参加者の方々にも楽しんでいただけたようで本当に安心しました。

参加者の皆さん、またECや分科会活動に関わってくださった皆さんに感謝しています。本当にありがとうございました。



「全体交流会」

報告者：住本 唯（東稜高校2年）

1日目の夕食後キャンプ場に集まり、19時から21時まで全体交流会を行いました。まず初めに揃った分科会ごとで会の最後におどるマイムマイムの練習をしました。ゲームが始まる前から参加者のみなさんの交流を深められたことによって楽しい雰囲気



ゲームに入れたと思います。ゲームは全部で3つ行いました。1つ目はジェスチャーゲームです。分科会ごとに1列に並び、先頭の人にお題を伝え、ジェスチャーだけで一番後ろの人まで伝えていきました。なかなか伝わらず苦戦している人もいたけれど、とても楽しい雰囲気

でゲームが進みました。ジェスチャーをしている間は喋ってはいけなくて、BGMを流したところ、より盛り上がりました。2つ目は分科会対抗クイズ大会です。正解数で対決だったのでとても盛り上がり

ました…。

3つ目は爆弾ゲームです。音楽を流して、音楽が止まった時にボールをもっていた人が罰ゲームをしました。参加者全員がひとつの輪になり、交流を深めるきっかけになったと思います。ゲームが終わったあとキャンプファイヤーをし、マイムマイムを踊りました。風が強く、火の勢いが強くなってしまいうハプニングがありましたが、ECも参加者の中に混ざることによって一体感がうまれ、楽しく踊ることが出来ました。

全体を通して、ECのみんなの協力もあり盛り上がる事ができたし、参加者も楽しんでもらえたので良かったです。反省点は、同じ学校の人がいなくて、1人で来ている参加者に、もっとECが話しかけて他の参加者と仲良くなるためのかけ橋になれば良かったなと思います。

私は始める前まで、成功させることが出来るか不安で緊張していたけれど、始まったら誰よりも楽しんでいました。参加者のみなさんにも楽しかった!と思ってもらえたら嬉しいです。



「未来職道」

報告者：北野 綾菜（尚絅高校3年）

二日目の夜に未来職道を行いました。未来職道ではKLCC（地雷廃絶と被害者支援の会・熊本）、熊本ユネスコ協会、外国から来た子ども支援ネット、FTやつしろ、きょうされん、青年海外協力隊（JICAデスク熊本）、日本ワーキングホリデー協会 WE Free The Children Japan 熊本、ボランティア学習協会、TEDxKumamoto、ボラキャンEC、SDGsの12団体とECによるSMILE Stationに参加してもらいました。

団体の方々には、ブースに分かれてもらい参加者が自由に聞きたい団体のブースに足を運びました。普段聞けない活動家に将来ためになるお話や、ボランティア、留学についてなど様々な参考になるお話を聞きました。参加者のみなさんは未来職道が始まる時間前から積極的にブースの席に座りとても意欲的に話を聞いたり、質問をしたりしていました。

参加者の中にはボランティア団体に入った人や、将来の夢に近付けるような話を聞けたという人が多数いました。「この団体の話を聞いてよかった!」「ボランティア団体に入れてうれしい!」「ここでの話を他の子にも教えたい」などという声を聞く

ことができました。ぜひ、今回の出展団体の皆様から聞いた話を今後に生かしてもらえると嬉しいです。

私はこのような活動家と高校生が会って話を聞く機会があることは素敵なことだと思います。将来について考え、校外活動をするきっかけとなり、参加者にとっても有意義な時間となったと思います。来年も活発な未来職道が開催されることを願っています。

今回このような時間を設けてくださった事務局の皆様や会場設営等サポートをしてくださった大学生サポーターの皆様そして貴重なお時間を割いてお話をしてくださった各団体の皆様、本当にありがとうございました。



「全体報告会」

報告者：東山 奈穂（必由館高校2年）

3日目の午前中に全体報告会がありました。ここでは、参加者の皆さんが模造紙2枚に2日間の活動についてまとめて、分科会ごとにブースに分かれて発表を行いました。参加者の皆さんに発表の機会が得られるように、事前に分科会内でAからGまでの7つのグループに分かれて、発表7分質疑応答3分の発表を繰り返しました。発表ポスターは表やグラフ、写真、クイズなどたくさんの工夫がされていたことがとても印象に残りました。皆さんが、報告会に向けて発表原稿を考えていて、当日の発表の上手さに驚きました。中には練習時間が足りなくて質疑応答に対応出来ていないところもありましたが、周りのECがサポートしてくれたおかげで無事終わることができました。留学生の対応についてはきちんと説明ができていたので、問題なくスムーズに進めることができました。早く発表が終わってしまったところや質疑応答で困っているところもありましたが、ECが積極的に質問して場を和ませていたところが良かったです。反省点としては、全体的に発表の時の声が小さくてトーンが低かったこと、質疑応答で出たことを各分科会で共有する時間

を取っていなかったこと、それをECに伝えていなくて混乱させてしまったことが挙げられます。声の大きさなどは、事前に分科会活動の時にECから参加者に促していく事を来年はしてほしいです。発表時間が長すぎたと思ったので、その点についても来年もう一度話し合うべきだと思いました。あと、全体報告会の流れの説明を何度も確認していたのにも関わらず、理解できていないECがいたのでもっと入念に説明するべきだと思いました。退所点検が終わった人からアンケートを配布して書いてもらったことについては、時間を効率良く使えたと思うので良かったです。最後に、今回の全体報告会は参加者の皆さんが熱心に取り組んでくれてとても良い雰囲気の中行えたと思います。実際に私の分科会の参加者も、一生懸命に原稿を考えていてすごく嬉しかったです。良い報告会にさせていただきありがとうございました。



「閉会式」

報告者：王 泊淋（東稜高校2年）

最終日に、全体報告会が終わり、閉会式は大研修室で行われました。最初は西尾先生によるクロージングミニ講演会が行われ、とても貴重なお話を聞くことができました。その後、各分科会の参加者1人ずつに3日間を通しての感想を発表してもらいました。そして、ECのみんなでもラキヤンの歌「キセキの旅」を合唱しました。今年は練習時間がとても短かったけれど、本番でECのみんなは声を出して歌うことができました。音楽だけが流れることなく想定していたより盛り上がりを感じました。歌う途中で参加者が手拍子をしてくださり、参加者と絆で繋がった瞬間でした。その流れで、集合写真を撮りました。一生

の思い出になる写真を撮ることができたのでとても嬉しかったです。最後は、閉会宣言をもって大会プログラムを終了したのですが、閉会式が終わったと同時に、3日間のすべての日程も終了したことを実感したとともに名残惜しさを感じました。もう一度みんなでボラキャンをはじめたい気持ちになりました。

こうして、明るく、楽しい雰囲気で行われることができたのは、これまで支えてくださったオブザーバーの方々をはじめ、大学生ボランティアのみなさん、事務局スタッフのみなさん、そして参加者のみなさんのおかげです。ありがとうございました。



「お礼の言葉」

実行委員長：工藤 優奈（真和高校2年）

このボラキャンに関わった皆さんへ。

「第14回国際ボランティアワークキャンプinASO」楽しんでいただけただけでしょうか？新たな発見はありましたか？

私はこのボラキャンにおいて実行委員/EC(Executive Committee)である有志の高校生主体となって大会開催に向け、今年度は「NEXT STAGE～受け継ぐキセキ 新たな道～」をテーマに企画・運営を行ってきました。このテーマを決めるにあたって、我々ECがボラキャンに対する思いが強すぎて言葉一つ一つにたくさんの意味がこもってしまいました。まずテーマについて説明をさせてください。「NEXTSTAGE」には元号が変わるに当たってボラキャンも新しくステップアップしようという意味を含めました。「受け継ぐ」には準備期間等お世話になった第13回の先輩方達から想いを受け継いでいることを示しました。「キセキ」には3つの意味があります。1つ目のキセキは「軌跡」。今までの先輩方が築き上げてきた道を受け継ぐという意味です。2つ目のキセキは「奇跡」。ここにECとして集まったことが奇跡だという意味を含めました。3つ目のキセキは「輝石」。私達の中にある未だ発掘されない原石を互いに見つけ合い、切磋琢磨していこう、という意味を持たせました。

キックオフ当初はECとしても一人の高校生としてもまだまだ未熟で至らないところも沢山あり、EC同士でぶつかることも少なくありませんでした。自分たちが何をすべきか、何が正解なのか、沢山考えました。そんな暗中模索状態の中、沢山の方にアドバイスを頂き、このボラキャンを成功させ、ECとして一人

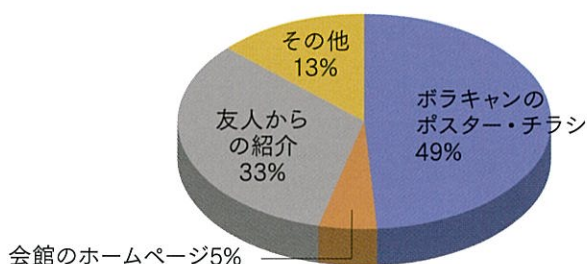
の高校生として成長することが出来ました。また自分のことを見つめなおし、新たな視野を広げる良い機会だったと思います。そして学校も学年も性別も違う私達ECが熊本市国際交流会館に集い、出会い、学んだことは私達の人生の中でかけがえない大切なものです。

また今年はキックオフが遅れ、例年より短い準備期間のなか無事全行程が遂行できたのは、キックオフから今日まで頑張ったECの仲間、影でサポートしてくださった事務局の皆さん、オブザーバーの皆さん、たくさん相談に乗ってくださったOB、OGの皆さん、そして今回参加してくださった皆さんのおかげです。また、第14回国際ボランティアワークキャンプを開催するに当たってお世話になった国立阿蘇青少年交流の家の皆さん。この場を借りて感謝の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。

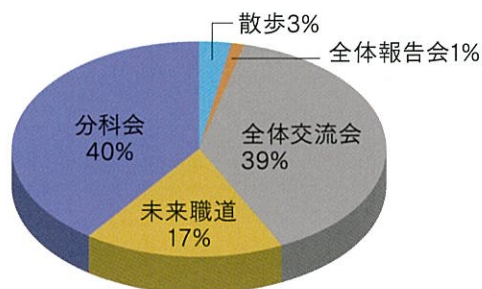


第14回 国際ボランティアワークキャンプ in ASO アンケート

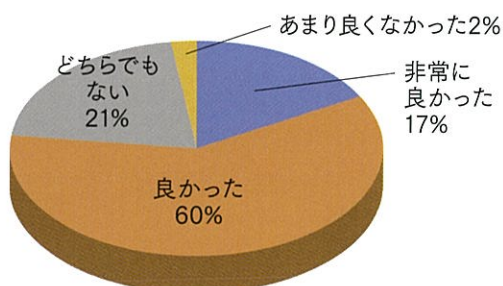
Q1 どのようにしてボランティアワークキャンプを知りましたか



Q2 このワークキャンプで一番心に残った活動は何ですか



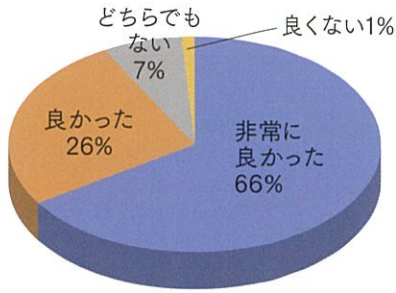
Q3 基調講演はどうでしたか



※主な理由。

- ・ボランティアに対する関心が高まった
- ・面白かった
- ・高校生にとっては難しい内容だった
- ・ボランティアの本来の意味を知り今回の活動の意義を理解することができた
- ・為になる話だった
- ・興味深い話だった
- ・ボランティアをすることの大切さに気づけた

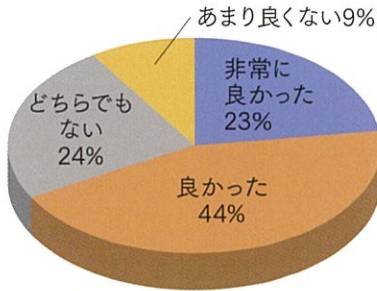
Q4 ECの説明や対応はどうでしたか



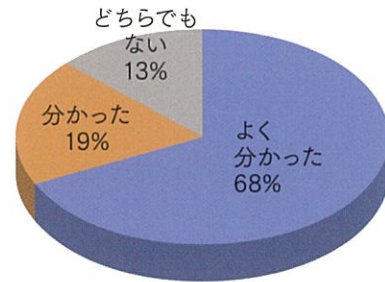
※主な理由。

- ・説明が丁寧で安心できた
- ・困っているときに教えてくれた
- ・みんなが優しく接してくれた
- ・親しみやすかった
- ・指示が的確だった
- ・説明や話しの進め方がとても上手で分かりやすかった

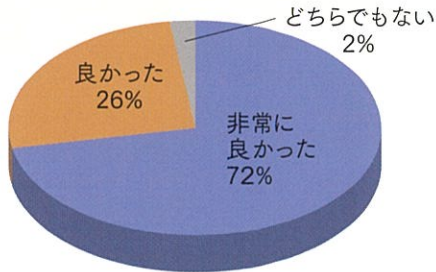
Q5 朝の散歩はどうでしたか



Q8 分科会活動はどうでしたか



Q6 全体交流会はどうでしたか



※主な理由。

- ・ゲームを通して同じ分科会の人とはもちろん他分科会の人とも仲良くなれた
- ・踊ったりゲームしたりしてとても楽しかった
- ・盛り上がり楽しかった ・分科会毎に団結感がうまれた
- ・みんなとの距離が縮まった

第一分科会

- ・自分が考えつかなかったことも他の人の意見で知れたのでとてもためになった・自分の先入観やイメージと今回学んだことにギャップがあったことに気づいた・他の人の意見を聞くことで深く考え、自分の意見も深めることができた・興味のあることについて詳しく学べた・基礎知識を身につけ、意見を共有することで様々な視点から課題に取り組めた・知識が広がった・楽しいゲームを通して仲を深めることができた

第二分科会

- ・意見を出しあいながら、深く考えることができた・今まで知らなかった平和についての知識を深めることができた・詳しく知ることができた・色々な人の意見を聞いて、色々な考え方があるのだと分かった・みんなと話すことができて楽しかった・平和といってもたくさんの種類があり、たくさんの考え方があることを知った

第三分科会

- ・写真や動画を使って説明してくれたのでとても分かりやすかった・ECが優しく丁寧に教えてくれた・ECの進め方がとても上手でわかりやすかった・自分の興味があることを深く知ることができた

第四分科会

- ・自分の意見を言えた・詳しく教えてくれたので分かりやすかった
- ・色々なアクティビティがあり楽しかった

第五分科会

- ・多くの意見や考え方を聞く機会になった・高校生と討論するいい機会となった(留学生)・SNSなどを使うときは十分に気をつけなければならないと思った・分かりやすかった

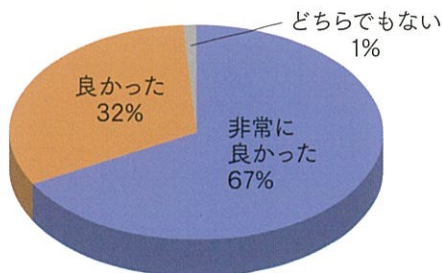
第六分科会

- ・実際に病院訪問をしたことで、より理解が深まり学ぶことができた・自分達で話し合い、考えることがためになった・ECが丁寧に説明してくれたので地域医療の知識が広がった・友達ができ、医療従事者になることを目指している方々と関わってよかった・地域医療の問題点を詳しく知ることができた

第七分科会

- ・答えがない多文化共生という考えをECが一生懸命伝えてくれた・具体例が多く分かりやすかった・ECの実体験が交えてあり分かりやすかった・様々なゲームや視点を通して多文化共生について分かりやすく教えてくれた・自分でしっかりと考え、それぞれの考えを共有することができた・当事者の貴重な話が聞けた・深く面白い

Q7 未来職道はどうでしたか



※主な理由。

- ・興味のわくブースが多くてもっと話を聞きたかった
- ・貴重な話を聞ける良い機会だった
- ・時間の区切りが分かりづらかった
- ・色々な話が聞けてとてもためになった
- ・興味のあることについて知れた
- ・今後に活かせるような話を聞くことができた

14th International Volunteer Work Camp



第14回 国際ボランティア ワークキャンプ実行委員会

高校生実行委員会メンバー

工藤 優奈	真和高校〈実行委員長〉
王 柏淋	東稜高校〈副委員長〉
村上 琴音	文徳高校〈副委員長〉
右田 綾乃	文徳高校
本田 彩夏	文徳高校
福田佳乃子	学園大付属高校
柳田 彩圭	学園大付属高校
松永 真依	学園大付属高校
工藤すみれ	真和高校
吉野 凜	真和高校
星子紗和子	真和高校
平川 愛菜	真和高校
東山 奈穂	必由館高校
村上 玲奈	熊本工業高校
住本 唯	東稜高校
久保田千尋	東稜高校
藤永 卓杜	東稜高校
江頭扶実子	熊本高校
鷹田トリシャ	第一高校
西村 矩乃	九州学院高校
ガスケル ジェイド	九州学院高校
キタインメグミ	尚綱高校
北野 綾菜	尚綱高校
臼井 萌	マリスト高校
浦崎 広空	東海大付属熊本星翔高校
廣瀬 実結	東海大付属熊本星翔高校



■ 構成団体 / 熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト
一般社団法人ドリーム・ラボ、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

■ 協力団体 / 独立行政法人国際協力機構(JICA)九州国際センター、阿蘇医療センター

■ 後援 / 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社、日本ボランティア学習協会

令和1年度 子どもゆめ基金助成事業



事務局

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

熊本市中央区花畑町4番18号 熊本市国際交流会館

TEL : 096-359-2121